

令和2年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(八基小学校)

平均正答率

(単位 %)

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
八基小	63.8	73.8	51.3	58.3	68.6	47.5
埼玉県	64.3	62.1	58.8	64.2	61.7	59.0

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	小4		小5		小6	
		八基小	埼玉県	八基小	埼玉県	八基小	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	92.6	81.9	100	84.4	91.6	87.8
	・相手の顔を見て、はっきりあいさつをすることができる(小4) ・自分からはっきりあいさつをすることができる(小5、小6)	88.9	77.0	100	76.7	66.6	76.8
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる	96.3	84.7	100	86.3	83.3	84.0
学習習慣	・学校の宿題をしている	92.6	95.5	100	95.5	95.8	96.4
	・学校の授業の予習や復習をしている	88.8	70.1	100	70.0	79.1	72.4
	・平日、学校の授業時間以外に1時間以上勉強している(塾等を含む)	55.5	57.7	81.3	62.3	50.1	68.4
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	77.7	69.2	87.6	65.1	50	58.6
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	96.3	87.3	100	88.9	91.7	90.0
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	85.2	73.7	93.8	67.9	58.3	63.5
その他	・自分には、よいところがある	77.7	77.2	93.8	74.5	70.8	75.7
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	85.1	80.4	93.8	77.9	70.8	76.0
	・将来の夢や目標をもっている	88.9	86.5	93.8	86.3	83.3	83.2

八基小の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

【国語】

- 「話すこと・聞くこと・書くこと」から出題されたほとんどの問題で、どの学年も県の正答率を上回っている。特に、自分の考えを書く問題では、県の正答率を(小4・5.7% 小5・27.9% 小6・4.8%)と、どの学年も大きく上回っている。
- 主語・述語・被修飾語について選択したり書き抜いたりするほとんどの問題で、どの学年も県の正答率を上回っている。文の構成を理解していることがわかる。
- 文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。

【算数】

- 4年生は口を用いて問題の場面を式に表す問題、5～6年生は文章を読んで答える問題の正答率が高い。
- 平面図形の問題では、県の正答率を上回っているものが多く、図形の性質を大方理解していると考えられる。
- 荷物の重さと箱の重さから、全体の重さをもとめる問題(小4)、概数を用いて和を見積もり、代金の見当をつける問題(小5)、単位量あたりの大きさを用いて価格を比べる問題(小6)など、日常生活の場面において、見当をつけて回答する問題に課題がある。
- ボールの直径の長さをもとにボールがすべて収まる箱を選ぶ問題(小4)、立体の図形の辺や面の位置関係の問題(小5)、内のりから容積を求める問題(小6)など、立体の図形の性質や図形の計量について考察することに課題がある。

【質問紙】

- 「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童の割合が、県の割合を上回っている。地域や家庭と連携し、渋沢栄一翁の精神を受け継ぐふるさと教育を続けている表れであると考えられる。
- 県と比較して、どの学年も学校の授業の予習復習をしている割合が多い。昨年度までの「家庭と連携した学習の取組」の研究成果が出ていると考えられる。
- 「地域の歴史や自然に関心をもっている」と答えた児童の割合が、県の割合を大幅に上回っている(小4・小5)。「総合的な学習の時間」の地域に根差した学習が、児童に浸透してきていると考えられる。
- どの学年も県と比較して予習復習に取り組んでいる割合が多いが、県と比較すると、学校の授業以外に1時間以上勉強している割合が少ない(小4・小6)。家庭での学習時間の確保が課題である。

課題への取組・改善策

【国語】

- 引き続き、自分の考えを書く活動を行い、児童の表現する力を高めていきます。その際、学習した漢字を文の中で正しく使えるようにします。
- 家庭学習でも、身に付くまで繰り返し漢字の練習をしましょう。また、練習している漢字を使って短文を作ってみましょう。

【算数】

- 学校では、日常生活と結びつくような体験的な学習を取り入れて学習を進めていきます。
- 日常生活の場面においても、「どのくらいの数(量)になるのかな。」などのように、見当をつけて生活してみましょう。
- 家庭学習で、わかりにくかったところやテストで間違えたところをしっかりと見直しましょう。また、考えてもわからなかったところは、先生に質問しましょう。

【その他】 相手の顔を見て自分からあいさつし、明るく気持ちよく生活しましょう。